



「助けられ上手」な人になる

私は五年ほど前から、地元の小学校で「相談員」という仕事をしています。

一週間に三日、数時間ずつ学校に滞在し、主に休み時間を使って子どもたちの話を聞いています。

「相談に乗る」というと、悩んでいる人に何か為になることを言ってあげなければいけないというイメージを持ちがちですが、そんなことをすると、子どもはすっかりするどころか、「説教された」「困っているから話に行ったのに、なんか叱られたような気がする」と思ってしまいます。なので、相談室で私がやっているのは「話を聞くこと」。思っていることを言葉にできただけで、気持ちが軽くなった、ということもあるようです。私は、以前新聞で読んだ内容を参考に、話を聞く時に手書きの小さなカードを使い、それを見せながら話を進めています。

《自分は何のタイプ?》

- ・「なんだよ！」と食ってかかる攻撃的な「どっかん」
- ・何か言われても黙ったり照れたり。いやだ、という思いが伝わらない「おろろ」
- ・不満があっても遠まわしに言葉や行いで表す「ねっちー」

自分はどのタイプに近いのか、まず選ばせませす。重なっても構いません。

しかし、この三つのタイプでは、自分の気持ちがうまく相手に伝わらないことに気付かせませす。

そこで続けて、「自分も相手も責めない伝え方があるんだよ」と、具体的に例を挙げていきます。

- ①「どうしてほしいか」言う。自分の気持ちも言ってみる。挙げる
- ②「言いにくい宣言」をする。「めっちゃ言いにくいんだけどさ…」で話を始める。
- ③悲しい時や腹が立っている時は、笑いながら話さない。
- ④理由や様子も聞いてみる。「なんで○○なの？」
- ⑤伝わってないと思ったら、何度でもやってみる。

「この中の一つだけ使ってもいいし、五つ全部使ってもいいよ」「どれならできそうかな」と、やれそうなものを選びませす。人間は何をしたらいいのかわからない時でも、示されたものの中から「選ぶ」というのはできるものです。

そして最後に、「性格は変えられないが、伝え方、言葉の使い方は変えられるんだよ」「やってみようか」と伝えると、子どもは大抵、来た時より力強く、明るい顔になっています。

いつも子どもたちに言っているのは、困っている時に自分で解決できれば一番いいが、それが難しい時に誰かに「困っています」と言えるのは、生きて行く為の大事な能力だということ。どうしても困った時は、人を頼ったり、助けを求めてもいいのです。

困った時に「困っています」といえる練習をさせ、「助けられ上手」な人に育てるお手伝いをする事、それが私のささやかな仕事です。

Step 07 川島弘子

ウィルあいち交流ネット参加グループ

- *さわらび会
- *メンズリブ名古屋
- *ア・コール
- *女性学'98の会
- *IPA
- *メディアの会かたつむり
- *ウィル10
- *A・B・C・Net
- *C・C・C
- *グループ・キートス
- *クラリネット'99
- *2000女性学の会
- *ウィル2000
- *I. W. L
- *ウィル・ミニ・ボックス
- *ウィルD○2002
- *平成いちご会
- *きらら2005
- *サーティネット '05
- *ベリーズ18
- *Step07
- *トライアングル '08
- *まちづくりファシリテーター勉強会
- *Fem.'09
- *Amelie' 10
- *なでしこAICHI
- *きりり24

ウィルあいち交流ネットとは…

ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループで組織された団体です。

男女共同参画は、日本の希望 (5) 少子化対策としての男女共同参画 一性別役割分業型家族の限界

中央大学・教授 山田 昌弘

日本では、少子化が深刻化しています。合計特殊出生率（註1）が、1.5を割り込む状態が20年間も続き、高齢化率は23%（註2）と世界一、人口減少も始まっています。

日本で少子化が長期化した理由には、さまざまな要因がありますが、大きな要因、いや、私は一番大きな要因が、男女共同参画の遅れだと判断しています。

先進国をみると、女性の活躍が進んでいる国、アメリカやイギリスでは出生率の低下はほとんどみられず、フランスや北欧諸国では一時低下しましたが、適切な政策によって出生率は回復しました。出生率が低い先進国は、日本を始めとして、イタリア、スペイン、韓国など、女性の労働力率が低い国ばかりです。

では、なぜ、先進国では、女性が活躍しない国ほど、出生率が低いのでしょうか。それは、高度成長期の工業社会に一般的だった「男は主に仕事、女は主に家事」という役割分業型の家族を形成することが経済的に無理、つまりは、男性の一人の収入では豊かな家族を維持することが難しくなっているからなのです。

工業社会では、会社の正社員である男性の収入は安定して増加しました。しかし、新しい経済が浸透すると共に、雇用が特に若い人の中で流動化します。正社員として安定的に勤められる職の数が減少し、正社員でも収入の増加が見込めなくなります。若年男性の収入が不安定化するのです。

アメリカや北西ヨーロッパでは、このような状況に対応するために、共働き化が進展しました。不安定になった男性の収入だけでは不十分だから、女性が仕事で得る収入が家族生活を維持するために

必要になります。そのため、これらの国々では、女性が子どもをもっても十分な収入を得ながら働き続けられる環境を整えたのです。

さらに、社会保障で子育て家庭を経済的に応援したのです。

しかし、日本では、「夫は主に仕事で家族の収入を支えるべき」という意識が未だ根強いままです。それだけでなく、若い人の中で、専業主婦になりたいという意識は近年むしろ強まっています。その結果、未婚化が深刻化するのです。

日本の少子化は、結婚しない人が増えることによって起こりました。多少下がり気味とはいえ、今でも結婚した夫婦は、だいたい2人の子どもを育てています。30代前半の未婚率は、2010年で男性47.3%、女性34.5%となりました。子育て盛りの年齢層で、男性の二人に一人、女性の三人に一人が未婚ならば、少子化が起こります。（図1）

そして、日本では、未婚者の大部分は親と同居しています。そして、調査によると、未婚男性の非正規雇用率は高く、一人の収入で家族を維持するのは無理です。一方、未婚女性は男性以上に非正規雇用率が高く、「収入が安定した男性」でなければ結婚しようとしません。親と同居しながら、収入が不安定な男性は結婚を諦め、女性は収入が高い男性と出会うまで待っているけれども、待っていてもみつからない、というのが現状です。

これも、「男は仕事、女性は家事」という役割分業意識に囚われ、かつ、女性が結婚や出産で働き続ける環境が整ってないから結婚が少なくなるのです。つまり、男女共同参画が進んでないことが、日本の少子化の原因なのです。

内閣府 広報誌「共同参画」9月号より

[編集後記]

めっきり秋めいてまいりましたが、体調を崩しやすいので気をつけてください。

10月・11月とイベントが続きますが、皆で協力して成功させましょう。

S.I

編集発行：ウィルあいち交流ネット

編集協力：(公財)あいち男女共同参画財団

企画協働課協働担当